

第 112 回岩手県総合計画審議会

(開催日時) 令和 8 年 7 月 27 日 (月) 10 : 00～12 : 00

(開催場所) サンセール盛岡 3 階大ホール

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - (1) 会長及び副会長の互選について
 - (2) 「若者・女性部会」の開催結果等について
 - (3) 第 3 期アクションプランの策定方針について
 - (4) 地域未来戦略について
- 4 意見交換(テーマ:「強みを更に伸ばす観点」と「底上げが必要な観点」の二つの視点から、今後 2 年間で特に強化すべきことについて)
- 5 その他
- 6 閉会

出席委員

阿部瑛子委員、伊藤裕一委員、牛崎志緒委員、大久保瞳委員、太田貴子委員、
小田舞子委員、蛸崎奈津子委員、河東英宜委員、神田謙一委員、菊地洋委員、
近藤信一委員、滝川佐波子委員、多田一彦委員、田村真理子委員、手塚さや香委員、
長屋あゆみ委員、野田大介委員、山下泰幸委員、山本欣郎委員

欠席委員

見年代瞳委員

1 開会

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 それでは、ただいまから第 112 回岩手県総合計画審議会を開催いたします。

政策企画部副部長の佐藤でございます。司会を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は、希望された委員にはリモートにて御出席いただいております。

また、次第等については紙でお配りしておりますが、その他の資料につきましてはお手元の端末に格納しておりますので、御確認をお願いいたします。

それでは、審議会の開催に当たり、会議の成立について報告いたします。委員 20 名のうち 19 名の御出席をいただいておりますことから、岩手県附属機関条例第 6 条第 2 項の規定により、会議が成立していることを御報告いたします。

2 あいさつ

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 それでは、開会に当たり、知事から御挨拶申し上げます。

○達増知事 皆様、おはようございます。第 112 回の岩手県総合計画審議会であります。委員の皆様には、この岩手県総合計画審議会の第 24 期の委員をお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。日頃から岩手県政の推進に御理解、御協力、御尽力をいただいておりますこと、この機会に改めて御礼を申し上げたいと思います。

今年度は、県の総合計画の第 3 期アクションプラン、中間計画の策定年に当たります。近年の世界情勢の変化や A I の急速な進展、課題は大変多いわけでありますけれども、地方自治体には県民の生活、仕事、学び、それぞれの現場における着実な政策の推進が求められます。

本日の議事では、また岩手県総合計画審議会に去年 12 月に新たに設置しました若者・女性部会からの報告があります。若者・女性の視点から岩手の現状や課題、今後の方向性について議論が行われまして、委員の皆様から多様な御意見をいただいております。日本の地方に強く残っていると指摘されています固定的価値観、無意識の思い込み、また一方での若者の新しい価値観など、多様な観点からの報告を今日の審議会では共有し、今後の県の計画策定にも生かしていければと思います。

国では、地方の強い経済の実現に力点を置いた地域未来戦略を閣議決定し、全国で地域産業クラスターを形成して地場産業を成長させる地域産業成長プランを策定しています。岩手県といたしましても、県の産業の強みや、また県の豊かな様々な地域資源を最大限に生かして、県内企業の競争力強化や人材の育成、人材の確保、また販路拡大などなど進めていきたいと思います。

本日の審議会では、若者・女性部会の開催結果、そして第 3 期アクションプランの策定方針などについて、委員の皆様から御意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それぞれの御活躍の分野、地域などから忌憚のない御意見、御提言を賜りますようよろしくお願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 続きまして、任期満了により委員の改選がございましたので、名簿に基づき五十音順に委員の皆様を御紹介させていただきます。

阿部瑛子委員でございます。

○阿部瑛子委員 よろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 伊藤裕一委員でございます。

○伊藤裕一委員 よろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 牛崎志緒委員でございます。

○牛崎志緒委員 よろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 大久保瞳委員でございます。

○大久保瞳委員 よろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 太田貴子委員でございます。

○太田貴子委員 よろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 小田舞子委員でございます。

○小田舞子委員 よろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 蛸崎奈津子委員でございます。

○蛸崎奈津子委員 よろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 河東英宜委員でございます。

○河東英宜委員 よろしく願いします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 神田謙一委員でございます。

○神田謙一委員 よろしく願いします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 菊地洋委員でございます。

○菊地洋委員 よろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 近藤信一委員でございます。

○近藤信一委員 よろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 滝川佐波子委員でございます。

○滝川佐波子委員 よろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 多田一彦委員でございます。

○多田一彦委員 どうぞよろしくお願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 田村真理子委員でございます。

○田村真理子委員 よろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 手塚さや香委員でございます。

○手塚さや香委員 よろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 長屋あゆみ委員でございます。

○長屋あゆみ委員 よろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 野田大介委員でございます。

○野田大介委員 よろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 山下泰幸委員でございます。

○山下泰幸委員 よろしく願いします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 山本欣郎委員でございます。

○山本欣郎委員 よろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 なお、見年代瞳委員は欠席となっております。

以上で委員の紹介を終わります。

それでは、議事に入ります前に、本日の審議の概要等、会議の進め方について事務局から御説明いたします。

○熊谷政策企画部政策企画課総括課長 資料1を御覧ください。第112回岩手県総合計画審議会の進め方につきまして、まず今審議会は第24期の委員による初めての審議会でございますので、はじめに会長及び副会長の互選をいたします。その後、議事の(2)、「若者・女性部会」の開催結果等について、(3)、第3期アクションプランの策定方針につきまして、それから(4)、地域未来戦略につきまして事務局から御説明の上、御審議いただきたいと思います。

なお、(2)、の「若者・女性部会」の開催結果等につきまして御報告の後、質疑応答、それから(3)、(4)はまとめて質疑応答とさせていただきます。

その後、意見交換といたしまして、いわて県民計画(2019～2028)第3期アクションプランの策定に向けまして、どのような点にこれから特に取り組んでいく必要があるのかといった内容につきまして、委員の皆様の観点から3分程度で御意見を頂戴したいと存じま

す。

本日の審議につきましては、このような進め方にしてみたいと思います。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 本日の審議会の内容は、以上を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

3 議事

(1) 会長及び副会長の互選について

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 それでは、ただいまから3の議事に入ります。

はじめに、岩手県附属機関条例第4条第2項の規定により、当審議会に会長、副会長各1名を置くこととされており、その選出は委員の互選によることとなっております。

会長、副会長の選出まで、仮の議長をどなたかにお願いしなければなりません。僭越ではありますが、事務局からお願いすることとしてよろしいでしょうか。

「異議なし」の声

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 それでは、恐縮ですが、伊藤裕一委員にお願いしたいと存じます。伊藤委員、よろしいでしょうか。

○伊藤裕一委員 はい、お受けいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 ありがとうございます。伊藤委員には、議長席に御着席いただき、進行をお願いしたいと存じます。

○伊藤裕一仮議長 ただいま仮議長の御指名をいただきましたので、暫時御協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。議事(1)の会長及び副会長の互選についてでございます。岩手県附属機関条例により、会長と副会長は委員の互選となっております。互選の方法につきましては、委員の方から何か御提案がございますでしょうか。

「なし」の声

○伊藤裕一仮議長 ないものと認めます。

事務局に提案を求めることとしてよろしいでしょうか。

「異議なし」の声

○伊藤裕一仮議長 ありがとうございます。それでは、事務局として案はございますでしょうか。

○熊谷政策企画部政策企画課総括課長 事務局といたしましては、会長には山本欣郎委員を、副会長には牛崎志緒委員をお願いしたいと考えております。

山本委員におかれましては、岩手大学の学長として幅広い見識を持たれており、会長に就任をお願いしたいと考えております。

また、牛崎委員におかれましては、ジョブカフェいわて総括責任者を務めるなど、本県施策につきまして御理解いただいておりますことから、会長を補佐していただけるものと考えまして、副会長に就任をお願いしたいと考えているものでございます。

○伊藤裕一仮議長 ただいま事務局から、会長には山本委員を、副会長には牛崎委員をとの御推薦がございました。これについて御意見、御異議はございませんでしょうか。

「異議なし」の声

○伊藤裕一仮議長 ないものと認めます。

御異議がないようですので、会長は山本委員に、また副会長を牛崎委員をお願いすることに決定いたします。御協力ありがとうございました。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 伊藤委員には、仮議長をお務めいただきありがとうございます。

伊藤委員には、席にお戻りいただきたいと思います。

それでは、山本会長は議長席に御着席をお願いいたします。ここからの会議運営は、条例の規定により会長が議長を務めることとなっておりますので、山本会長よろしく願いいたします。

○山本欣郎会長 岩手大学の山本と申します。これからよりよい岩手県をつくることを目指して、皆さん活発な御議論をいただければ幸いです。議事進行をこれから行っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、牛崎副会長からも一言御挨拶いただければと思います。

○牛崎志緒副会長 皆様、どうぞよろしくお願いいたします。委員の皆様、非常に各所で御活躍の皆様でございます。大変勉強になるかと思います。楽しみにしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○山本欣郎会長 どうもありがとうございました。

(2)「若者・女性部会」の開催結果等について

○山本欣郎会長 それでは、会議次第により議事を進めてまいります。

次に、議事(2)の「若者・女性部会」の開催結果等について、事務局から説明をお願いいたします。

○菊池政策企画部政策企画課特命参事兼政策課長 それでは、若者・女性部会の開催結果

について御報告いたします。資料につきましては、資料2でございます。

それでは、本部会につきましては、若者や女性の視点から本県の現状や課題、今後の取組の基本的な方向性について議論し、その成果を次期アクションプラン等の策定や推進に生かしていくことを目的として設置したものでございます。

委員といたしましては、本県出身で、現在県内、県外に在住されている方、また本県以外の出身、また県外在住で本県と関わりをお持ちの方8名に参画いただきまして、それぞれの知見を生かしていただきながら、第1回から第4回にわたり議論を行っていただきました。

議論のテーマにつきましては、第1回が「地方創生10年の成果と課題」、第2回が「一人ひとりの希望の実現」、第3回が「希望が実現できる社会」とし、第4回で議論の総括を行ったところでございます。

なお、本部会における議論の内容につきましては、部会の牛崎部会長から御報告をお願いいたします。

○牛崎志緒若者・女性部会長 改めまして、牛崎でございます。それでは、若者・女性部会の報告の内容につきまして御報告をいたします。

それでは、資料は2ページを御覧ください。まず、部会全体を通じての総括になります。部会では、各回のテーマに沿って、若者や女性の希望を後押しできる社会とは何かという視点から議論を重ねてきました。その中で、委員からは希望を制約する要因として、仕事や情報などの選択肢不足、そして地域社会や文化における生きにくさ、経済面やライフプランに対する将来不安が挙げられました。また、県外進学や就職後に岩手との接点が減少して、知らないうちに岩手が選択肢から外れてしまうことや若者・女性の価値観の変化に地域や企業が十分対応できていないということも課題として共有されています。

こうした議論を整理した結果、希望の後押しを実現する上で、つながりの拡大、変化に対応するアプローチという視点が特に重要であるということ、そして希望を後押しするためには、例えば挑戦ができるといった可能性の拡大という点、一方で失敗しても大丈夫といった安心できるという点、この両方が必要であるという方向性が共有されました。

その上で、本部会においては若者・女性が特に重視する視点として3つございます。1つ目が個人の選択や価値観を認め合う社会、そして2つ目です。やりたいことができて、失敗しても大丈夫な環境、3つ目が無意識の思い込みに対する気づき、見直しとジェンダーギャップの解消という3点に整理いたしました。

次に、各回の議論の結果について補足をいたします。資料は3ページを御覧ください。第1回では、地方創生10年間の成果と課題を共有して、若者・女性の現状認識について議論をいたしました。委員からは、働き方や定住観の多様化、県外進学、就職後のつながりの希薄化、人口減少社会への対応の在り方などに関する意見がございました。

第2回では、一人ひとりの希望の実現をテーマに、希望を制約している要因を整理いたしました。その中で、選択肢の不足、生きにくさ、将来不安という課題が共有されるとともに、希望の後押しには可能性と安心の両輪が不可欠であるということが示されました。

第3回では、希望が実現できる社会について議論いたしまして、多様な生き方や価値観が認められることや失敗しても受皿があること、行政、企業、地域が若者と女性の価値観

やライフスタイルの変化に対応していくことの重要性が共有されています。

続いて、4ページを御覧ください。ここからは、希望の後押しと、その希望を後押しする上で重要な支援となるつながりの拡大、変化に適応するアプローチについて、議論の内容を分類化して整理したものでございます。希望の後押しに関する部分については、地元にはやりたい仕事がないという意識が依然として強く、県内で挑戦や成長できるイメージが十分に持たれていないということが課題として挙げられました。また、奨学金負担ですとか低賃金、将来不安を背景に、やりたいことよりも失敗しない選択を優先してしまう状況があるのではないかという意見も出されています。

一方で、若者・女性が望む社会にしていくためには、単に挑戦を促すだけではなくて、その土台づくりが必要であるという意見がありました。具体的には、高校生や大学生が地域課題を共に考えることができる場、あるいは様々な地域コミュニティに関われる、関わるができる場、そういったものですとか、親、そして先生以外のいわゆる第三の大人と言われるところですが、そういった大人との接点、困ったときや希望が持てないときの支え、そして結婚、出産、子育てなどのライフプランに応じた支援などが必要であると意見が出されています。

そのほか、やりたいことができるだけでなく、やりたいことが見つけられることも重要であるという意見もございまして、希望の土壌を育てていくことの必要性が共有されています。

では、5ページを続いて御覧ください。つながりの拡大に関するものです。委員からは、県外進学や就職後、岩手の情報や地域との接点が減少して、岩手を選択肢として考える機会そのものが少なくなっているという指摘がございました。また、岩手に選択肢がないのではなく、知らないまま選択肢から外れているということも、そういった御意見も多く出されました。

そのため、県外進学や就職後も継続的に岩手の情報に触れられること、地域で挑戦している人や多様な働き方を実践している人に触れられること、副業や兼業、地域プロジェクトの参加機会があること、人生の節目ごとに岩手を思い出せる関係性を維持することなどが重要との意見が出されました。さらに、定住だけを成果とするのではなく、関係人口、そして副業なども含めた多様な関わり方を尊重するべきであるという意見が示されています。

続いて、6ページを御覧ください。変化に適応するアプローチに関するものです。委員からは、人口減少が進む中で、従来型の社会、働き方、地域運営のままでは持続が難しくなっているという認識が共有されました。また、副業、兼業、働きながらの子育て、多様な働き方や暮らし方といった若者や女性の価値観、ライフスタイルの変化に対して、地域、そして企業が十分に対応できていないという意見もございました。さらに、固定的な役割意識、またこうあるべきという社会規範、地域における過度な干渉などが若者や女性の生きづらさにつながっているのではないかという意見も出されています。

このため、行政だけではなく、企業や社会も含めて、多様な生き方や働き方を受け入れて、対応、変化していくことが重要であるといった意見が示されました。

資料は以上になりますが、最後に私から部会長としての感想を申し上げます。報告をお聞きいただいて、また資料を御覧いただいて、これまでも他の様々な御議論の中で取り上

げられたキーワードが改めて重要であるといったことが再認識できたのではないかと思います。

本部会では、若者や女性がどのような社会であれば希望を持って暮らしていけるのかという、より本質的な議論ができたと感じています。この場では全てをお伝えするのはなかなか困難なのですが、委員の皆様、県内、県外、また様々な背景を持ちの方でしたけれども、岩手への思いが非常に深い方で、ディスカッションの場は大変有意義なものでした。また、委員の皆様からは、定住だけを目指すのではなくて、多様な関わり方を認めるべきといったことですか、若者を変えるのではなくて、社会、企業、地域が変わる必要があるといった意見も示されました。県民一人一人が我が事としてこのことに向き合う、簡単なことではないですけれども、そういった取組がこれからまさに向き合っていく必要があると感じています。

特に印象的だったのが、希望を実現するためには挑戦の機会だけではなく、失敗しても大丈夫と思える安心感が必要だという点です。これは、若者・女性だけではなく、また様々なシーン、例えば起業される方ですとか、そういったこれからの岩手、そして社会全体に共通する視点であると感じています。

今回の部会の議論が今後の岩手県の計画や施策に反映されまして、若者、そして女性に前向きに岩手を選びたい、そういった社会づくりにつながることを期待しております。

以上で若者・女性部会の開催結果の報告とさせていただきます。

○菊池政策企画部政策企画課特命参事兼政策課長 ありがとうございました。

本部会におきましては、委員それぞれのお立場から多様な御意見をいただきました。今後本部会でいただいた御意見も踏まえまして、第3期アクションプラン、また総合戦略のほか、各種施策の検討推進に生かしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○山本欣郎会長 どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの説明に対して5分程度質疑の時間を設けたいと思います。

委員の皆様から御質問等ございましたら御発言をお願いいたします。どなたかいかがでしょうか。

どうぞ。

○神田謙一委員 住田町長の神田でございます。確認含めて御教授いただきたいのですが、まさに女性・若者部会、本当に需要をどう捉えるかという観点ではすごく重要な中身だったと報告を受けて感じているところでありますけれども、現実的に岩手県、特に少子高齢化、高齢化が進んでいる社会において、これをどう理解していただくかというのが、実はその地域が変わっていくという点では重要だと感じるわけにありますけれども、そういう点において、いわゆる社会教育の在り方みたいなところは、女性・若者部会の中では意見等々出なかったのでしょうか。そこら辺、今後、若者・女性ですから、そこまで観点はなかったかもしれませんが、社会を変えていくというところでは高齢者の方々にどうアプローチしていくかというのが重要なと感じるものですから、若者・女性の方々、そ

こら辺、何か意見があったのかどうか確認させていただければと思います。

○山本欣郎会長　いかがでしょうか。

○菊池政策企画部政策企画課特命参事兼政策課長　今回の若者・女性部会につきましては、回数も限られていたということもございまして、若者自身、女性自身が今後どのような分野なりで活躍を思い描いているかとか、あるいはそういったところに対してどういった社会的なハードルがあるのかといったようなところで議論してまいりまして、委員おっしゃられた高齢者の関係ですとか、そういった部分に関しましては、今回の部会においては特に議論になっていないところではございますが、様々、やはり今後人口減少が進んでくる中で、そういった高齢者も含め、子育ての関係も含め、そういったところでの御意見というものはいただいております。

○山本欣郎会長　どうもありがとうございます。よろしいですか。

ほかに何かございますでしょうか。

小田委員から、リモートですね、よろしくお願いします。

○小田舞子委員　お願いいたします。御報告ありがとうございます。御報告の中で2点、固定的価値観や無意識の思い込みが個人の希望や選択を狭めているというところと、あと将来の不安を背景にやりたいことよりも失敗しない選択を優先する傾向があるという、この2つに関して、具体的にはどのような発言が会議の中で行われたかということをもし共有していただけるようであれば具体的に知りたいなと思いましたので、教えていただけますでしょうか。

○山本欣郎会長　いかがですか。

○菊池政策企画部政策企画課特命参事兼政策課長　固定的価値観につきましては、現在県外に住まわれている方の意見として、やはり本県につきましては地域の、あるいは周囲の、近所の方々からの様々な御意見といいますか、お話といいますか、生活していく中で、そういったことを耳にすることもあるということで、やはりそういったものが一種固定的価値観ということで捉えられていたり、あるいは男女の働き方とか役割分担、そういった観点についての御意見をいただいたというところでございます。

あとは、やりたいことよりも失敗しない選択ということにつきましては、やはり一つ選択肢がそう多くはないといったところも関係しているといったようなことで、また失敗しても大丈夫な環境ということでのまとめとなっておりますが、いろいろチャレンジしたい、でももし駄目だったときに、それをまたやり直せる機会が必要ではないかといったようなところでの御意見をいただいたところでございます。

○山本欣郎会長　よろしいでしょうか。

○小田舞子委員 ありがとうございます。

○山本欣郎会長 手塚委員からも意見、質問があるようです。よろしくお願いします。

○手塚さや香委員 ありがとうございます。手塚です。今回アンコンシャスバイアスだったりについてもお話あったみたいですが、若い世代や女性の家庭、主に親とかおじいさん、おばあさんという家庭の中での価値観だったりとか、そういう中での生きづらさとか、岩手に居づらさみたいなことについて言及した方、部会のメンバーがいらっしまったのかどうかというところをちょっとお聞きしたいのです。

○菊池政策企画部政策企画課特命参事兼政策課長 家庭の中でのお話ということだと思いますが、1つあったのは、例えば長男だからとか、長男だから岩手に戻るのだからとか、やはり従前の考え方というか、家族の中においてもそういった役割が求められる部分があるといったような御意見はございました。

○山本欣郎会長 ありがとうございました。

長屋委員からも御質問いただいておりますけれども、ちょっと進行の都合がありますので、一番最後のところで総合ディスカッションのような形で御意見いただければと思います。

私もこの件に関しては、分析はいいと思うのですが、ではどう対策するのだと、この部分が非常に重要で、そこの辺りの発言はあまりなかったなという印象がありましたので、今後いろいろと御議論できればと思います。

申し訳ありませんけれども、次の議題に進んでいきたいと思います。

（３）第３期アクションプランの策定方針について

（４）地域未来戦略について

○山本欣郎会長 その次は、議事の（３）、第３期アクションプランの策定方針についてでございます。

まず、事務局から御説明お願いいたします。御質問に関しては、会議の進行上、議事（４）の説明が終わった後に一括してお受けしたいと思います。

それでは、課長よろしくお願いいたします。

○菊池政策企画部政策企画課特命参事兼政策課長 資料３でございます。いわて県民計画（2019～2028）第３期アクションプランの策定方針についてであります。

１ページを御覧ください。まず、第３期アクションプランの趣旨でございます。こちらにつきましては、県民計画、いわて県民計画の実効性を確保するため、計画期間において重点的・優先的に取り組むべき政策、具体的な方策を明らかにするものでございます。

計画期間につきましては、令和９年度から令和１０年度までの２年間。

構成といたしましては、復興推進プラン、政策推進プラン、地域振興プラン、行政経営プランの４つのプランで構成とすることとしてございます。

2 番、策定に当たっての基本的な考え方につきましては、これまでのアクションプランの評価結果ですとか復興の進捗、社会経済情勢等を踏まえまして策定してまいります。また、広く意見を伺いながら策定を進めてまいります。先ほど御報告させていただきました若者・女性部会での議論、意見など、特に若者・女性の意見を聴取、反映する姿勢を重視してまいりたいと考えております。

政策推進プランにおきましては、指標の達成状況や県民ニーズなどを踏まえまして、岩手の強みを伸ばす観点や底上げの観点から、10 の政策分野ごとに今後 2 年間で特に強化すべき事項を明確にし、実効性のあるプランの策定に取り組んでまいります。

3 番、策定スケジュールに関してでございます。まず、令和 8 年 5 月からということで、現在進めているものでありますし、この後この総計審の場においても意見交換をお願いいたしますが、現在は特に強化すべき事項についての意見聴取に努めているところでございます。9 月の次回、第 113 回総計審におきましては、意見聴取等を踏まえた特に強化すべき事項等に関する御説明、意見交換、そして 11 月の第 114 回総計審におきましては、第 3 期アクションプランの素案の御説明、11 月から 12 月にかけては素案についてのパブリックコメント、4 広域圏ごとの地域説明会などを行います。そして、来年 2 月の第 115 回総計審において最終案を御説明させていただき、3 月に策定、公表といった運びで考えているところでございます。

第 3 期アクションプランの策定方針については以上でございます。

以降、参考資料として添付しておりますが、説明は割愛させていただきます。

以上でございます。

○山本欣郎会長 どうもありがとうございました。

続きまして、議事（4）の地域未来戦略について事務局から説明をお願いいたします。

○菊池政策企画部政策企画課特命参事兼政策課長 地域未来戦略についてでございます。資料 4 でございます。

まず、1 ページでございます。この地域未来戦略でございますが、国の地方創生の流れの中で、国が新たに打ち出した計画、戦略でございます。資料 1 ページの丸の 1 つ目のところでございますが、2014 年からこの地方創生の取組がスタートいたしました。そして、下段の図、フローの方を御覧になっていただければと思いますが、国におきましては 2015 年度を始期とするまち・ひと・しごと創生総合戦略が策定されまして、これまでおおむね 5 年ごとにこの戦略が改定、策定されてきたところでございます。こうした中、昨年 12 月には新たに地方創生に関する総合戦略が策定されたところでございますが、これを全面的に変更する形で、強い地域経済の構築に重点を置いた地域未来戦略、これが今月 7 月 21 日に閣議決定されたところでございます。

2 ページを御覧ください。国の地域未来戦略の目標及び基本方向といたしましては、ポツの 1 つ目ですが、47 都道府県どこに住んでいても安全な生活や必要な医療、福祉、質の高い教育、働く場所がある社会を実現するということが示されております。そして、政策目標として、強い地域経済の構築とともに、豊かな生活環境、選ばれる地方が掲げられております。

3 ページを御覧ください。強い地域経済の構築に関する施策としましては、3 つの計画の推進が掲げられております。まず、A 計画、戦略産業クラスター計画でございますが、こちらは A I ですとか半導体、資源エネルギー、G X といった国が示す 17 の戦略分野にかない、大規模投資が見込まれるプロジェクトを都道府県が提案の上、国が取りまとめるものでございます。

次に、右の方、ピンクの部分ですが、自治体で作成する地域産業成長プランにつきましては、B 計画、地域産業クラスター計画において、地域の強みである産業分野のクラスターの形成、育成を図るとともに、C 計画、地場産業成長プランにより地域資源の活用を図っていくというものでございます。

A、B、C 計画ともに、現在本県では調整中ではございますが、現在の取組状況、取組方向につきまして、4 ページの方を御覧ください。国が取りまとめる A 計画につきましては、半導体分野について企業投資や人材育成、インフラ整備などを盛り込んだプロジェクトを国に提案しているところでございます。

5 ページを御覧ください。本県が作成する B 計画、地域産業クラスター計画についてでございますが、本県産業の特色、強みである自動車や半導体、医療機器とともに、将来的な需要も見据えまして、加速器関連に係る計画の作成に取り組んでいるところでございます。

次に、下段の C 計画、地域産業成長プランについてでございますが、農林水産業や食品製造業、酒造業、工芸品、アパレルなど 10 の分野、地域資源に係るプランの作成に取り組んでおります。

それぞれの具体の取組につきましては、6 ページ、7 ページに記載しております。個別の説明は割愛させていただきますが、A I ですとか、デジタルの力も活用しながら、生産性の向上や人材育成、販路拡大などに取り組みまして、地域経済の持続的な成長を図ってまいりたいと考えております。

なお、B 計画、地域産業クラスター計画、C 計画、地域産業成長プランともに、随時作成が可能とされております。御説明した産業分野以外にも引き続き検討を進めてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○山本欣郎会長 どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの議事（3）及び（4）の説明に対して 5 分程度の質疑の時間を設けたいと思います。

委員の皆様から何か御質問等ございましたら御発言をお願いします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○河東英宜委員 かまいし DMC、河東と申します。御説明ありがとうございました。産業クラスターのところなのですが、これもしかしたらそもそもの趣旨と異なるのかもしれませんが、これからの主力産業になり得るものの一つとして、観光と国も言っているかと思うのですけれども、それは入らないものなののでしょうか。

○菊池政策企画部政策企画課特命参事兼政策課長 観光につきましては、先ほど今後も随時作成可能というお話しでしたが、検討を進めているところでございます。こちら第1回目の計画策定、期限でございますが、その後も引き続き観光を含め、様々な分野を検討してまいりたいと考えております。

○河東英宜委員 分かりました。

すみません、続けて意見なのですけれども、もし御検討いただけるのであれば、やはり観光というのは裾野が広い産業であるということと、今後の移住等を考えたときに、どうしてもほかの人たち、県外から来る方々とマッチしやすい案件だったりもするのかなと。岩手県を知ってもらいやすい案件だったりもするのかなという部分もございまして、ぜひ入れていただきたいなとも思います。

○山本欣郎会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

はい。

○多田一彦委員 説明ありがとうございます。こういった戦略が加速的に進むために何が必要かというのをずっと考えていると、去年米よかったですね。そうすると、各地域の第一次産業の生産額がかなり伸びていると思うのです。やっぱり地方は農業がよくなればよくなるという部分が全体的にあるので、今年の米の値段がポイントだと私は思っております。これをある程度のところで、例えば2万8,000円なら2万8,000円というような意識付けとか、いろんなアピールをこれからしていこうと思っています。場合によっては、買い取る価格を設定して、2万8,000円で買い取ろうかというようなところなのですから、相変わらず米の値段については悲観的な方向の報道が多いということがあります。これらの計画が少し元気になるためには、今年の米の値段が重要だということを認識しながらいろいろ準備をしていくと、ポジティブになっていくのではないかなと思っていますので、いろんな形で米価のアピールというものをしていく必要があるなと感じております。直接的に関係ないかもしれないのですけれども、こういった計画が活発になるかどうかということがそこら辺にかかっているところはすごく多いと思います。一応意見として言わせていただきました。

○山本欣郎会長 どうもありがとうございました。

この件に関して、何かコメントございますか。よろしいですか。

どうぞ。

○高橋農林水産部副部長兼農林水産企画室長 農林水産部でございます。米の価格でございますが、やはり我々としましても今年度の価格というのは非常に注視しているところでございますので、委員の御提案のとおり、この地場産業成長プランの中で水稻ということでプランを入れておりますけれども、そういった部分で今年度の米の価格等々、様々な状況を踏まえまして、取組の方を進めていきたいと思っております。

○山本欣郎会長 どうもありがとうございました。

まだ御質問等あるかと思えますけれども、先に進んでいきたいと思えます。

4 意見交換（テーマ：「強みを更に伸ばす観点」と「底上げが必要な観点」の二つの視点から、今後２年間で特に強化すべきことについて）

○山本欣郎会長 次は、４番の意見交換です。意見交換のテーマは、第３期アクションプランにおける特に強化すべき事項についてです。

最初に、事務局から説明をお願いいたします。

○菊池政策企画部政策企画課特命参事兼政策課長 意見交換についてでございます。資料５の方を御覧ください。

先ほど第３期アクションプランの策定方針について御説明したところでございますが、本日の意見交換におきましては、岩手の強みを更に伸ばす観点と底上げが必要な観点から、今後２年間で特に強化すべきことについて御意見を頂戴したいと考えております。意見交換の参考として、資料５によりまして、まず本県を取り巻く社会経済情勢やこれまでの取組の成果と課題などを御説明した上で、今後重点的に取り組むべき事項について御議論をお願いしたいと考えております。

２ページ御覧ください。本日の資料でございますが、社会経済情勢の変化、いわて幸福関連指標の概況、県民ニーズの状況、国の動向、そして前回審議会でいただいた御意見の要旨で構成してございます。

まず、３ページから８ページでございますが、本県の人口の動向について整理しております。３ページでは、本県の出生数についてであります。長期的な減少傾向が続いております。

少し飛びまして、６ページでございます。６ページにありますとおり、社会増減につきましても転出超過が続いているところでございまして、８ページでございます。特に進学や就職期における若年層の流出が社会減の大きな要因となっているところでございます。このように、本県では自然減と社会減が相まって、人口減少が進行しているという状況にあります。

こうした人口動向を踏まえまして、９ページから１１ページでは将来の見通し、その影響について整理しております。９ページでございますが、国立社会保障・人口問題研究所の推計によりますと、本県人口は２０５０年には約７８万人となり、現在の約６割まで減少すると見込まれております。結婚支援ですとか子育て支援など、人口減少を緩和するための取組を引き続き進めていくことが重要でございます。

一方で、１０ページでございますが、仮に出生率が改善したとしても、当面は人口減少、生産年齢人口の減少が続くことが見込まれます。人口規模が縮小しても、地域社会や経済を維持していくための適応策も併せて進めていく必要がございます。

そして、こうした人口減少の影響は、様々な分野に表れ始めており、１１ページでございますが、その具体例といたしましては、公共交通の担い手不足、介護人材の不足、建設業や農業の担い手不足といった人手不足ということが示されております。第３期アクション

プランの検討に当たりましては、人口減少を緩和する取組と人口減少社会に適応する取組の両面から考えていく必要があるものと考えております。第3期アクションプランの検討に当たりましては、課題への対応だけではなく、本県の強みや新たな可能性にも目を向ける必要がございます。

12 ページ、13 ページでございますが、本県を取り巻く機会などについて整理しております。12 ページでございますが、インバウンドの拡大、県産品の輸出拡大、自動車、半導体関連産業の集積など、本県経済の成長につながる動きが見られます。

13 ページでございます。A I やデジタル技術の進展、G X の推進などは、人手不足への対応ですとか、生産性向上につながることを考えられます。

14 ページ、15 ページにつきましては、第2期アクションプランについて、県の政策評価を基に整理してございます。14 ページのとおり、いわて幸福関連指標全体では、達成又は概ね達成となった指標が64%となっております。

15 ページでは、その具体的内容を示しております。例えば健康・余暇分野では、余暇時間やスポーツ実施率など成果が見られる指標がある一方で、健康寿命や自殺者など達成度が芳しくない指標も見られるところでございます。

このように、各政策分野において成果が見られる指標がある一方、課題が残る指標も見られることから、第3期アクションプランでは、成果が表れている取組はさらに伸ばしながら、課題が残る取組については、底上げを図るという両面の視点が必要であると考えております。

続いて16 ページ、17 ページでございますが、県民意識調査の結果を基に、県民が感じる重要度と満足度の関係から、県民ニーズ度の高い項目を整理しております。左上の領域に、この16 ページの左上の領域に位置するものが県民が重要と考えている一方、満足度が低いということで、ニーズ度が高いと考えられる分野でございます。県といたしましては、指標上の課題だけでなく、こうした県民ニーズも踏まえながら、第3期アクションプランにおいて強化すべき事項を検討していきたいと考えております。

18 ページでございます。こちら地域未来戦略の関係でございますが、先ほど御説明いたしましたので、割愛させていただきます。

最後に、19 ページ以降でございます。ここに2月に開催した第111回総合計画審議会で委員の皆様からいただいた主な御意見を整理しております。人口減少対策、若者女性に選ばれる地域づくり、教育・人材育成、関係人口、観光振興、産業の生産性向上、医療・健康づくりなど、多岐にわたる御意見を頂戴したところでございます。

本日は、これまで御説明した社会経済情勢の変化、第2期アクションプランの成果と課題、県民ニーズ、さらには前回いただいた御意見も踏まえながら、今後2年間で重点的に取り組むべき事項について、委員の皆様それぞれの専門的見地から御意見をいただければと考えております。

以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○山本欣郎会長 ありがとうございました。

それでは、意見交換テーマについて、委員の皆様から3分程度で御発言をお願いします。事務局において2分30秒でベルを1回、3分でベルを2回鳴らしますので、発言の目安と

してください。

それではまず、阿部委員からお願いします。

○阿部瑛子委員 強みを更に伸ばす観点と、底上げが必要な観点ということで2つの観点から申し上げます。

まず、強みを更に伸ばす観点ですけれども、岩手県の強みとしては、1つは豊かな地域資源、特に観光ですとか、あと農林水産、食などが挙げられるかと思います。そして、2つ目としては、北上川流域を中心とした産業集積だと考えております。

まず、地域資源につきましては、国内外からの観光、あとは地場産品の高付加価値化というところにつなげて、外からの需要をもっと取り込んでいくという点が大事だと考えております。

ただ一方で、観光については、私自身は中心市街地でも自然が残っている町並みであるとか、あと人が多過ぎないというところも町としての非常にいい点だと感じておりまして、そうした地方都市のよさというところを残しながらオーバーツーリズムですとか、そういったところもバランスもとっていただきながら施策を進めていただけないのかなと思っております。

2つ目、北上川流域を中心とした自動車、あと半導体等の産業集積ですけれども、こちらは今後も成長が期待される部分だと思っております。そちらの点につきましては、企業を呼び込むというだけではなくて、地場の企業ですとか、あと中小企業、そういった点への波及効果を高めるという視点を持っていただいて、企業のマッチングですとか、あと取引振興というところの支援策を実施していくことが重要だと思っております。あとは、そうした中小企業などへの生産性向上の支援といったところも一体で進めていくことが重要だと思っております。

次に、底上げが必要な観点ということで、資料でもいろいろと示されておりますけれども、岩手県の大きな課題として、人口減少、特に若年層、社会減、あとそれに伴う自然減というところが挙げられるかと思います。今回若者・女性部会の方でも仕事や情報の選択肢が少ないとか、生きにくさとか、いろんな内容が挙げられておりましたけれども、若者・女性に選ばれるという点でちょっと考えていきますと、進学や就職で県外に出た後も仕事や住まいとかキャリアの面で、岩手もいいかなとか、ありだなと思ってもらえる選択肢を、環境を整えるというところが生活ですとか働く環境を底上げするという点が大事なかなと思っております。

こういった点ですと、非常に幅広い取組が必要になると思うのですが、具体的に賃金水準の向上であるとか、仕事と生活の両立の支援であるとか、子育て環境の充実であるとか様々あるかと思います。あとは、定住を促すだけではなくて副業や二拠点生活など多様な関わり方を広げていくという点も大事な点かと思っております。

以上です。

○山本欣郎会長 ありがとうございました。

では、伊藤委員をお願いします。

○伊藤裕一委員 伊藤でございます。私からは、私ども労働組合でございますので、そういった働く者の立場からの発言とさせていただければと思っています。

私は継続ですので、これまでもこういった審議会の中でも発言をさせていただいておりますけれども、やはり課題認識としては、いわゆる働く人たちの人材確保というところが非常に課題であると思っています。人口の関係については、先ほど来資料等も提示をされているところでありまして、全体的に、様々これから第3期のアクションプランを策定していくに当たって、この課題を特出しするかどうかは別にしまして、多分恐らくそれぞれの政策課題において、横断的に関わってくる課題なのだろうと考えているところでございます。

そういう意味では、今日の議題の中でも御報告いただきました若者・女性部会の中でも様々議論がなされたように課題認識が示されておりますので、そういった部分をしっかりと反映をさせながら、それぞれの政策課題に落とし込んでいくことが必要なだろうと、そう考えているところでございます。

ただ、この人口減少課題については、私も行政出身ですので、30年前くらいまでは自然減というよりは、自然はまだ微増していた時代だったと思うのですが、社会減の部分については、かつてからずっと継続してきたと思っています。

そういう意味では、自然減がこの間進行してきたことが最終的に社会減も加速をさせてきたというような、そういう課題だと思っていますので、何とか自然増に転じるということは非常に難しいことだとは思っておりますけれども、今の社会減を少しでも減らして、今後の社会増に結びつけていくという、そういう流れで今後の政策課題については組み立てていく必要があるのだろうと、そう考えているところでございます。

いずれこの今の社会減、人口減少が働き手の確保という部分で非常に課題になってきているということを今後も政策課題の中でぜひ重要視していただければなと考えているところでございます。

以上でございます。

○山本欣郎会長 ありがとうございます。

では、牛崎委員お願いします。

○牛崎志緒委員 ありがとうございます。私から2点です。

まず1点ですが、この2つの視点を特に重要視していく上で必要になっていくものというのがやはり分野横断のDX、あるいはAXと言われていると思いますが、各基礎自治体、そして民間が保有する様々なデータを共通基盤として活用できる、そういったデータ連携の基盤整備というのが非常に求められるところなのかなと思います。これを岩手県内で完結するものなのかどうか、また国の施策との整合性といったところの問題もあるかと思いますが、例えば私どもジョブカフェいわてで関わっている企業様が様々な取組をされている中で、例えば先進的な取組をされている企業がいるという情報を、特定の部署のみで扱うのではなく、部局横断あるいは分野横断でも、活用できるといいなと思うことがあります。データ連携やAIの活用でスピード感を持った情報共有が必要であると考えます。我々のようなハブ機関の様々な取組をしていくという必要も一方ではあるか

と思うのですが。AXの取組というのは今後必要になるのかなというところが1点です。あとはこれまでの、この会議の中でも申し上げていたところではあるのですが、岩手の幸福度といったところで県民が岩手に住めてよかったと思う方々というのは一定数やはりいるわけで、私自身も岩手でよかったと、岩手に住めていてよかったと、心から思うのですが、そういった岩手に住んでいる人がしっかり一定程度満足しているというところ、そういったところをもっと可視化していく必要があるのかなと思っています。

それが民間、例えば行政、いろんな観点はあるかと思うのですが、もっと民間が参画をして、しっかりエンゲージメントを高めていく、この取組においても、先ほど申しましたように分野横断で進めていくといったところが今後必要になるのかなと考えています。

以上です。

○山本欣郎会長 ありがとうございます。

では、大久保委員をお願いします。

○大久保瞳委員 よろしくお願ひいたします。

ふだんは二戸市のラジオ局で地域の情報発信などを行っているのですが、実際今私は子育て中で、先日高校野球を引退した高校3年生の18歳の息子がおります。二戸の高校に通っています。いわゆる進学校と言われる学校なのですが、ほとんどの生徒さんは進学していて、就職希望の子は片手くらいです。

先日地元の合同企業説明会という会に参加させていただいたのですが、そこに参加するのは、高卒で就職を希望している生徒さん、進学する生徒さんは参加できないという話を聞きました。二戸も岩手も日本に誇れる企業が、いい企業がたくさんあるのに全然知らないで、やっぱり外に出てしまうのだと、今もそういう状況なのだと、とても残念だと思っています。

地元の企業もあまり大っ広げに言えない、すごく自慢できることなのだけれども、言えない。例えばのぼり旗つくっている企業さんがあるのですが、プロサッカーのスタンド100人ぐらい人が隠れるような大きなものをつくっている企業さんなのだけれども、そこはあくまでも自分ところは黒子企業だとおっしゃっていて、ホームページなどでもあまり宣伝はしていないのですが、そういったすごい企業さんもあるし、最近新卒の求人票って御覧になりましたか、基本給がとっても高くて、私自身も転職したいと思う企業が本当にたくさんあるのに驚きました。そういうのを進学する子にももっともっと知ってもらう取組をしていただきたいと感じています。

以上です。

○山本欣郎会長 ありがとうございます。

では、太田委員をお願いします。

○太田貴子委員 株式会社大武・ルート工業の太田と申します。県南の一関市で製造業を営んでおります。自社で開発した製品を製造販売しており、海外の売上げ比率が高いです。

本日は、地方の製造業の観点からお話をさせていただければと思います。

強みを伸ばす観点なのですけれども、関係人口を人材確保の入り口にできたらよいかなと考えました。当社は人材の確保に苦労しているのですけれども、近年海外営業や経営に関われる人材を2名獲得できました。2人ともIターンで、地方出身者ではないのですけれども、以前大手企業で東北支社で数年働いた経験があつて、そのときに岩手との接点があった方たちです。こうした層は、一関ではとても採用しにくい人材で、なかなか採れないのですけれども、そういった方たちが採用できたのは転勤という形であつても岩手県と接点を持っていたからだと考えています。

先ほど資料にもありましたとおり、岩手の企業や地域情報は自ら探しに行かなければ届きにくく、知らないまま選択肢から外れてしまっているという記載がありましたが、その2人にも同じ指摘を受けております。大久保委員のお話にもありましたとおり、岩手県にはよいところとか、よい企業がたくさんあるのにPRが足りないということを指摘されています。

関係人口というと、移住や観光の話として語られがちなのですが、私どもにとっては採用の入り口でもあり、弊社では特に会社の中核を担う人材がそこから採用されたということもあり、牛崎委員の御報告にもあつた若者・女性部会の意見で多様な関わり合いがあつてもいいのではないかという話もあつたとおり、観光や多様な関わりによって多様な関係人口を増やす取組を人材確保の観点からも位置づけていければよいのではないかなと考えました。

そして、もう一つ底上げが必要な観点は人材の確保と採用後の育成についてです。一方で、弊社は技術職をはじめとして県内での確保は依然として厳しく、厳しいために開発の一部と海外営業の拠点を県外に置いています。県内大卒者の県内就職率がDの遅れとなっていますが、これは我々地方の中小企業から見ても同じ課題となっています。特に若い女性、20代前半の採用は、採用といいますか、応募そのものがなく先ほどの御報告にもありましたとおり、もしかしたら我々製造業の事務職には応募があるのですけれども、思い込みや、募集する側の思い込みもあるのかもしれないと思って、反省しながら聞いておりました。

人材育成についてお話しします。人材、人口減少、今後一関市は特に過疎化が進んでまいりますので、フィジカルAIや自動化というのは避けては通れないのですけれども、それを継続的に回すには社内に人材が必要となります。少人数で運営していかなければいけないために、一人一人が精鋭でなければ継続していけない状態に入ると思います。しかし、そうした即戦力は地方の中小企業にはなかなか来てくれないので、雇用した後に育てる体制が必要だと思います。

高度人材の育成というと、新卒の入り口に目を向けがちですが、資料4の半導体分野でのフィジカルAI等に対応できる高度育成の人材など、既に地方企業で働いている社員が高度人材に育っていける仕組みの強化も必要だと考えます。

以上です。

○山本欣郎会長　ありがとうございました。

小田委員お願いします。

○小田舞子委員 よろしくお願ひします。私は、幼稚園から高校までを岩手で過ごし、大学で東京に出て、その後 25 年間会社員として仕事を続けてきました。そして、15 年以上岩手出身もしくは岩手のファンの仲間たちと岩手を応援するボランティア活動が続けてまいりました。岩手県庁の皆さんや県内様々な地域の事業者さんの皆様にも御協力をいただいております。そういう立場からお話ししたいと思ひます。

今回岩手で過ごしていた時期に自分にとって培われた力と、上京後に培われた力を比較して次のように考えました。

強みを更に伸ばすという観点では、岩手は、生きる力であったり、何かをつくり出す力、あと考える力みたいなものは強いのかなと、非常に主観的ですが、思っております。

また、岩手県出身者であることということの誇りというものをさらに持てるような、既に持っているのですけれども、さらにそこを伸ばせるのかなと思ひます。

底上げが必要な観点では、動く力、動かす力、動かされる力と、ちょっと抽象度が高いのですけれども、そういうような力を伸ばしていったほうがいいのかと思っております。詳しく言いますと、厳しい自然の中で日常的に生きるということの意味を深く考えることができる環境なのかなと思っております。そこで、例えば文章を書いたり、絵を描いたり、何かをつくり出すことは、何かしやすいような環境があるような気がしております。また、自然が身近な環境だからこそ、何か一人で、もしくは仲間と考える力みたいなものが養われる気がするのです。

しかし一方で、動く力、動かす力、動かされる力、まだ伸び代があると思っております。例えばこうしようと考えて、実際に一歩二歩踏み出す行動を起こす力、自分一人ではなくて、周りを巻き込んで構想を実現するために動かしていく力、そしてこうしたいというリーダーがいたときに、それに勇気を持って巻き込まれていく、動かされていく力というものが必要なのではないかなと思っております。これを実現するには小さい頃からの教育も重要ですし、社会の中でも、産官民が一体となって、動こうとする人を全力で支援する機運、文化、風土を構築していく必要があると思ひます。そのためには具体的な助言であったりとか、資源を与えるといったようなサポートも必要かと思ひます。若者・女性の会議にもありましたけれども、ロールモデルの提示ということも大事だと思ひます。さらに、今はもうインターネットとか AI とかあって、もっとグローバルに、ダイナミックに、自由に動ける環境が整っておりますので、そういった発想を培っていくということが大事だと思ひます。

県民ニーズの中で安定した就職環境というものが、ニーズがあると書いてあったのですけれども、それに応えるという考え方も大事ですけれども、より新しい県民ニーズを育てるという意味合いで、例えばリスクをとって自分の望むキャリアを構築する、挑戦することがニーズとして上がってくるような教育をしていくということも必要なかなと思っております。

以上です。

○山本欣郎会長 ありがとうございます。

では、蛸崎委員お願いします。

○蛸崎奈津子委員 よろしくお願ひいたします。私は、日頃大学で看護学生を育てている立場におります。また、専門が助産師というところで、周産期医療とそちらの2点の観点で意見を述べさせていただきたいと思っております。

まず、強みを更に伸ばす観点といたしましては、今若い子育てをされている方々を見ていますと、やはり自然が豊かで、コンパクトで、身の丈に合った暮らしというのですか、駐車料もかからず、車でよいときに、楽しいところに行けてというようなところは非常に自分らしい望んだ子育てというところに大きな影響を与えられているのではないかなと思いますし、今県の方でも進めていただいております子育て支援の充実というところもかなり恩恵を受けている若者、妊産婦さんも多いなというところがあります。こちらはぜひ今後にもさらに伸ばして進めていただけたらと思っております。

ただ、一方で学生の様子を見ていますと、少し挑戦をしたいなというところで就職を考えていくときに、やはり選択肢が少し少ないなというところがコンパクトさの裏表というところがあるかなと感じています。

周産期医療の現場というところで見てみますと、やはり他県に先駆けてネットワークシステム等が、やはり県土が広いというところもありまして、いち早く進めていただいているところは、他県の方々からもすごく羨ましがられているところでもございますので、この辺りはさらに強化いただきたいことと、数年前から保健福祉部さんの方でも精力的に進めていただいている若者の健康づくり、妊娠する前からのプレコンセプションケアというところも進めていただいております、妊娠するしない、結婚するしないにかかわらず、健康面から子どもたちの望むライフプランというところですか、そこを進めていく施策は、自分らしく生きていくというところ、そして地元に着着を持ってというところで、行く行くはよい効果が得られるのではないかなというところで期待をしているところです。

一方で、底上げが必要な観点というところでは、先ほど御報告いただきましたところでもありましたが、やはりつながりというところを分野横断的に進めていく必要があるかなと思っております。妊産婦さんたちは何とか自分たちでやろうみたいなところで、頼る力があるとよいのではと思いますので、小さなときから、学校教育のあたりから、人に頼ることで安心もするし、楽になるし、イメージもつくしというような、そんな体験を積み重ねていけるとよいかなと思っております。

医療現場ではなかなか助産師も周産期に携われる機会が、特に病院では少なくなって、お産に関わる診療所へと流出している現状が最近特にありますので、この辺りも少し改善をしながら周産期の現場で頼る力、つながる力を伸ばしていくことで、貢献できればなと感じています。

以上になります。

○山本欣郎会長 ありがとうございます。

河東委員お願いします。

○河東英宜委員 先ほど若者・女性部会の御意見を聞いていて1つ思ったところが、私どもも雇用する側、たった20人なのですけれども、雇用する側だったりするのですが、やっ

ぱり若い人たちが何人か仕事を3つ分掛け持ちしていたりするのですよ、あるいは2つ、当社と別なところ。やっぱり受入れ側というのが、そういうのもありなのだよねというのを考えていかなければいけないかなと思うし、場合によってはそれを表彰する制度みたいなものを設けてみるであるとか、何かそこ一步進んでみてもいいのかなと。あと失敗しない、したくない、それもちろんだと思います。

若いうちに失敗しろとかよく言われますけれども、失敗したくない。そういう意味では、今進めているこの複業の制度、遠恋複業課とかなさっているかと思うのですけれども、それを先ほどの十の、10個の力を入れていくべき業務、そんなところに掛け合わせていくとか、首都圏にいる、でもかつ地方に行ってみたい、そういう人たちを複業で関わらせる仕組みみたいなものがあるのかなと思います。

我々も地域の中で、例えば水産加工会社とかがB to BからB to Cになっていく中で、やっぱりマーケティングとか、そういう部分をやる人がいなかったりするのです。そういう部分なんかはもしかしたら兼業でできたりとかする部分もあるのかなと。いきなり水産加工会社に入ってくれというのと、敷居が高いかもしれませんけれども、職務としてのマーケティングをやってくれというのと、これ一つ響いたりもするのかなと、何かそんなことを考えながら聞いておりました。

もう一つ、インバウンドとか関係人口の創出、こういうところは非常に観光が大きな効果をもたらすなと思っております。一次産業を巻き込んでいく観光なんていうのも岩手の在り方だなと思いますし、ぜひここに力を入れていっていただきたいなと。

今観光・プロモーション室であるとか、ふるさと振興部、三陸DMOセンター、こちら非常に汗をかきながら頑張ってくれているというか、非常に地域と向き合ってくれているなという感じがありまして、一緒にやる上でやりやすい感じがございます。そういう中で、今回残念ながら観光庁への派遣というのがなくなったと聞いておりまして、ぜひこれ何とか復活していただけないかなと。やっぱりそういうところで磨かれてきた人材というのは非常に強く、そういう場で、現場で力を発揮していたりしますので、ぜひここら辺見直していただけるとありがたいなと思っている次第でございます。

以上でございます。

○山本欣郎会長 ありがとうございました。

神田委員お願いします。

○神田謙一委員 神田でございます。皆さんの御意見聞きながら、参考にさせてもらいながら発言させていただきたいと思います。

いずれですね、今世の中は、皆さん御承知のとおり人口減少社会、少子高齢化社会、特に岩手、また私の場合は住田町ということで、まさにその最先端を行っているような高齢化率も50%になる手前まで来ておる、本当に大変な状況の地域、中山間地域の代表ということで、委員にさせていただいているのかなと思います。

そうした中において、社会を形成する文化的な部分といいますか、どうも考え方が物質主義的、また刹那主義的といいますか、利己主義的といいますか、個人主義的な風潮が日本全体傾向としてあるのではないかと捉えております。そういう中において、同地域をつ

くる本当に大きな課題だと思っております。今取組として、人口減対策なり、G XなりD X、そして安全・安心な地域づくりということで、今県民計画の部分で取組を進めてきていただいているわけですが、そういう中において、この残る2年間、さらにどこに力を入れていくかという部分、また仕上げの時期でもありますし、次期10か年にどうつなげるかという視点も大事だろうと思います。そういう部分で、皆さん委員からも出ているとおり、今までの取組の中で若者世帯の就業なり、住まいなり、子育て支援、これは一体的な形の中で進める必要はもちろんだと思いますが、県内企業と高校、大学とのマッチングの在り方等々含めて工夫が必要かなと。

まさに経済、先ほども冒頭言ったとおり、人間、日本国民の若者の考え方という部分がどうしても、給与等経済的な部分で引っ張られているなというところが大きな要因ベースにあると思っています。ここを外すわけにはいかないのだろうと思います。

まさにそういう点でいうと、若者・女性部会での意見、これは本当に重要視しつつ、さらに、最初言いましたけれども、社会を変えていく、受け入れる方に変わっていただくという部分でいうと、社会教育の在り方というような部分ですね、高齢者の方々にどう理解をしていただくかという部分のその啓発の在り方も一工夫する必要があるのではないかと思います。具体の部分で言いますと、例えばG X、D Xという部分がございます。まさに県内の中小企業、経済的な部分でいいますと、言葉は知っておりますが、機会としてなかなか生かし切れていないという部分が現実あるかと思っています。こういう分野の後押しの部分、例えばカーボンリサイクルの部分についてしっかり実装なり事業化等の支援をより力強く進めていく等々ですね、また女性の部分でいうと、医療が物凄く大事だと思います。病院がないエリアに、これはどこの女性の方と話してもそこに住もうとは思わないとした場合に、医師不足もそうですけれども、そういう点において遠隔医療等々の在り方を、これを実装していくと、こういう広い県土においても、どこに住んでも医療提供を受けられるというような部分、技術を駆使した形の中での環境整備というのは重要なのだろうと思います。

いずれ人口減対策を軸にしながらG X、D X、安全・安心というような部分を横串を通した施策を今後より力強く進めていただければありがたいと思います。

○山本欣郎会長 どうもありがとうございました。

では、菊地委員をお願いします。

○菊地洋委員 岩手大学の菊地でございます。私は、日本国憲法の研究者であると同時に、教育学部の教員でもあるので、その両方の2つの視点から述べさせていただきます。

まず、憲法研究者の立ち位置から申しまして、まず知事及び県の皆様に関しましては憲法13条、幸福追求権を軸にして被災民に寄り添うということから始まり、それぞれの県民の幸福追求のためにいろんな施策を打ち出していることに関しては感謝申し上げます。

ただ一方で、今人口減の中で、地域社会の抱える問題として、例えば地域交通をどうするかとかそういった地域のインフラですね、公共インフラに関してどうするかということに関しては、一自治体ではもうかなわないことですので、広域でどう考えるか、特に高齢者、農村部、山村部における交通事情に関してはどうするかということに関しては、少し

県が中心となって考えていただかなければいけないのかなと思っています。

さて、憲法研究者の立ち位置というよりは教育学部の教員としての立ち位置として、教育に関して少しコメントをさせていただきますが、教育に関して申しますと、先ほど大久保委員からお話がありましたが、地域のことをまずは、小学校、中学校、高校できちっと理解していないのではないかと、地域の様々な企業、いろんな企業があるにもかかわらず、それは分かっていないのではないかという御指摘がありました。例えば大槌町であれば、大槌町教育委員会では、ふるさと科という形で、9年間、小学校、中学校を通した一貫したふるさとを学ぶ機会というのが設けられています。

そういった形で、地元のことを愛するという郷土愛というのですか、郷土愛を育む、もしくは郷土のことをよく知る機会をまず設けることが必要だと思っています。そういったこと、子供たちを育てることが、例えば高校から大学、もしくは地元の進学とかではなくて、東京とかどこか行くかもしれないかもしれませんが、ただ行く行くは戻ってくる、地元のことを理解した上で、一回ちょっと外に出てみるということがあったとしても、また地元のところに戻ってくるというサケと同じですね、サケと同じような、こういう形で考える必要があるのかなと僕は思っています。そういう意味で、教育って大事だなと思っています。

あと、県民のニーズとして、特にいじめの不登校の適切な対処とか、次世代を担う人材育成ということが結構ここではニーズが高いとあります。いじめや不登校に関しては、一自治体では難しい話ですので、やっぱり県が中心となってどう支えていくかだと思いますが、そういった様々な教育のニーズといいますか、様々な学びの多様性に対して、県がどうするかということは考えなければいけないのかなと、そこら辺ももう少しちょっといろいろと丁寧な施策が必要かなと思っています。

私からは以上です。すみません。失礼いたします。

○山本欣郎会長 ありがとうございました。

近藤委員をお願いします。

○近藤信一委員 県立大学の近藤です。私は経営戦略論と中小企業研究が専門でやっておりますので、その点の観点からと、もう一つ、本学部におきまして就職担当の委員長と全学の就職担当の委員をしておりますので、この点からも踏まえてお話をさせていただければと思っています。

冒頭に県の中で自動車産業と、半導体産業と、医療機器産業の産業振興を図っていこうという中で、私もヘルステックイノベーションハブの運営委員を設立当初からずっとさせていただいておりまして、医療機器産業においてはクラスター形成が非常にうまく進んでいると実感しております。

またさらに、自動車産業と半導体産業においては、県南において日本では珍しく産業集積が生まれつつある、そういった地域だなと思っています。授業でも日本で産業集積が崩壊している地域が多いわけですが、日本では珍しく自動車産業と半導体の集積が生まれている地域として紹介しております。

ただし、残念なのが、ここでその強みをさらに伸ばすという視点なのですが、ほとんどが生産拠点になるわけですね。そうすると、先日NHKスペシャルでトヨタのことが紹介

されておりましてけれども、やはり研究開発拠点、また企画系の部門がなければ発注の決定権がないわけです。そういったことを考えますと、ぜひ企画系であるだとか、研究開発拠点であるだとか、そういったところを誘致するということが非常に重要なと考えております。これは底上げが必要な観点というところもつながってくるのですけれども、大卒の人材が社会減の中の一つの流出になっている。うちのゼミ生なんかもよく東京の企業に行ってしまうわけですが、ここで必要なのがやはりやりたい仕事がないと、先ほど女性部会の中で言われておりましてけれども、挑戦できるイメージがないとか、その一つがやはり企画系の職種がないという形になってくる。特に文系の学部生に言わせると、そういった企画系の職種がないということになります。

なぜないかというと、大企業やベンチャー企業のほとんどが、中小企業も含めて多くが生産拠点が多いということです。やはり私はヘルステックイノベーションなんかのセグメントの岩渕さんなんかもそうですけれども、ベンチャー企業を育成して行って、ぜひこちらに本社を置いていただくということで企画系の人材を育成していく必要があるのかなと考えております。

そして、注目の高いところでいうと教育のところになりますが、我々もAI時代負けないような考える学生を育てていこうということで、現在カリキュラム改定とともにアドミッションポリシーの改定も行っていて、私もそこに関わっているのですが、やはりPBL型の授業を増やしていきたいと思って我々も奮闘しております。

一方で、行政の皆さんにおかれましては高付加価値のある職種ですね、またはそういったところをできる業種、例えばIT系であるだとか、そういった企業の誘致や育成というものをぜひお願いしたいと思っております。

私から以上です。

○山本欣郎会長 ありがとうございました。

滝川委員をお願いします。

○滝川佐波子委員 岩手県医師会の滝川と申します。医療関係の主に人材確保の観点から発言したいと存じます。

小学生を対象とした将来になりたい職業のアンケートを検索しますと、最近はやوتューバーとかインフルエンサーが1位になっていまして、時代だなと驚くわけですが、医師や看護師はまだトップテンに残っております。ただ、数年後果たして子供に憧れてもらえる職業でいられるのかと危惧をしているところです。

先ほどお示しいただいた県民意識調査の結果を見ますと、適切な医療体制は重要度が高く、住み慣れた地域で生活できるというニーズを満たすのには不可欠ということになります。すなわち岩手に限りませんが、この分野の強みはまさに人々に求められているという点につきます。情緒的な表現にはなりますが、医療従事者として働き、地域と関わり、喜びも悲しみも共有しながら過ごす人生には価値があると思います。若者・女性、そういう方にぜひ資格を取っていただいて、こういった分野を目指していただきたいと思います。しかしながら、現実は大変厳しく、底上げが必要な観点は多々あります。医療従事者の確保と地域偏在対策が最重要課題であるのは共通認識だと思います。

先日、知事が地域医療を担う医師の確保を目指す知事の会を代表して、厚労省と文科省に行っていただきましたけれども、医師のみならず全ての医療従事者、さらには医療事務の確保も大変厳しい状況です。雇用のために人材紹介会社に高額な紹介料を払っている実態がございます。医療機関にとって大きな負担です。診療報酬を頂いて運営している我々にとっても、また社会保険料を支払っている県民の皆様にとっても納得できるような支出とは言えないと思います。社会保険料の負担軽減を求める社会の声、また消費税減税もいよいよ本格的な検討をされておりますが、医療機関の経営環境は今後ますます厳しくなっております。重い責任や厳しい労働環境に見合った報酬が得られなければ人は去り、医療が崩壊してしまいます。今年も県からは経営環境や、それから賃金向上、賃金の改善のための援助を頂いて大変感謝しておりますが、ぜひそうしたところも今後ともよろしく願いたいと思います。

日本医師会ではドクターバンクを設置いたしまして、医師のマッチング事業を始めました。まだまだ機能しているとはいいがたい状況ですけれども、ぜひ県とこの点について連携をしていきたいと希望しております。

また、岩手県では後継者がいない医療機関の承継についての事業も検討されていると先日理事会でお聞きしました。この点についてもぜひ連携を深めてまいりたいと思います。

若者・女性に選ばれるとの観点では、先ほどもございましたが、妊産婦への支援、また医療DXの推進により雇用を生み、広い県土をカバーする持続可能な医療体制の構築をと共に担っていただきたいと存じます。

以上でございます。

○山本欣郎会長 ありがとうございました。

多田委員お願いします。

○多田一彦委員 皆さんお話しになったところとかぶってくるところもあります。例えば小さい頃からの教育というのは非常に重要で、やっぱりチャレンジできる人間、精神というものを育てるために、小さい頃からの教育、家庭の教育、小学校までですね、これは非常に重要だと思います。それによって、考え方がチャレンジできる人間になっていくのではないかと思います。

それと、やりたいことがないという話もありますけれども、知らないということもあると思います。岩手の中にはかなりやれることがあるのですが、知らないということ、自分が分からないで、その範囲で話をしているからちょっとずれが出てくると。だから、そのためにはPRとかそういう情報を流すということも必要ですけれども、情報を自ら取りに行くということも絶対に必要なことであって、それも一つ人間力とか、小さい頃からの教育の中で出てくるのではないかと。それと、チャレンジしていく人間、その精神も出てくると思います。したがって、自己啓発を常に傍らでやっていけるような体制というものが重要だと思います。

我々行政からすると、やっぱり投資、地域が投資とチャレンジしなければじり貧になっていくと思いますので、それらができるような行政にもならなければいけないし、市民の人たちと協働していく形をとっていかなければいけないと思います。そのうえで、計画力

であるとか、計画するについても時間というものをどう考えていくかということをもみんなで考えていかなければいけないと思っています。強みを伸ばすためには、やっぱり伸ばせる人材育成というものが重要だと考えております。

以上です。

○山本欣郎会長 ありがとうございました。

田村委員をお願いします。

○田村真理子委員 八幡平市の田村と申します。よろしくお願いします。私は、農協青年部の岩手県の理事という立場と、あと子育てするお母さんという立場からちょっとお話しさせていただきたいと思います。

まず農家、本当に視野の狭い一農家の個人意見としてですが、私の家は家族経営で、法人化されている大きな農家さんとやっぱり経営の仕方が全然違って、4人でまずやるのですけれども、その中で1人が休むとなるとやっぱり大きく作業効率が下がるということで、私は今子供が2人いるのですけれども、3人目考えたのですが、やっぱり3人目を産むとなると、その分1年間ぐらいいは休まなければいけない。そうすると、両親にすごく負担がかかるということで、3人目は諦めざるを得ない状況でした。というので、農家に限らずそういう仕事、家庭環境で子供を諦めなければいけなかった人たちも結構多いと思います。やはり自分が子供を産んでしまって、その子供が大きくなったときに、では果たしてその子供が幸せに暮らしていけるような世界状況なのかまで考えてしまうと、親のエゴかなと思ったりもして、やっぱり次の子供と踏み込めないときもやっぱりあるのかなと思いました。

また、子供に関しては今小学4年生なのですけれども、今の小学校は、いわゆる発達障がいと言われる子供が多く見られて、うちの子もけがあるということで今病院には通っているのですが、そういう子を持つ親として、やっぱり周りになかなか大っ広げに言えないような状況ですので、そういう親御さんって一人で悩んでいる方がすごく多いと思うのです。そういう親御さんたちと何かつながれる場があればすごく心が安定するし、親としても同じ悩みを抱えている方がこんなにいるのだと思って安心して、子供にも接する態度がやっぱり柔らかくなると思うのです。子供もですけれども、育てる親に対しても何か支援というか、親同士のつながりが広がるような場があればいいなと、今すごく思っております。

農業に関してですが、農業というのは本当に今コストがすごく上がっていて、一つのものをつくるのにすごく倍以上のお金がかかるようになってきたのですが、売るものに、価格にはほとんど反映されてきていないのが本当に現状です。さらに、雇用費も最低賃金も上がりまして、そのくらい払わなければいけないけれども、そのくらい戻ってくるかと言われればそうでもないの、人を雇いたいけれども、残らないので、我慢する、自分たちが頑張る、できない、縮小していく、やめていくという農家がすごく周りでも多いので、今本当に末端の農家さんにも何か手元に残るような施策、政策というか、対策が必要なのではないかなというのは本当に一個人農家、家族経営の農家としてすごく思うので、農業に関する要望と、あと子供関係のお母さん方へのケアみたいなこともこれから必要なので

はないかなと思います。

すみません。以上です。

○山本欣郎会長 ありがとうございました。

手塚委員お願いします。

○手塚さや香委員 釜石の手塚です。私は、新卒で新聞社の転勤で岩手、盛岡に赴任したことをきっかけに、東日本大震災の後に新聞社を辞めて釜石に復興支援のために来ました。そこから震災から10年たったのを機に独立しまして、今は地域おこし協力隊、岩手で活動している協力隊の支援ですとか、あと一次産業を中心に取材して原稿を書くという仕事ですとか、あと県内の中小企業さんの同世代というか、ミドルマネジャー層のキャリア支援などにも関わっているという様々な、とっちらかった立場からコメントさせていただきます。

強みという部分ですごく感じるのは、私は埼玉、東京に同級生とかも多くいて、彼らとも先月ぐらいに話す機会があったのですけれども、東京で暮らしている友人たちと比べて自分のこっちの生活を考えたときのすごい強みとして考えるのは、今は東京って億出さないとマンションを買えないというような状況で、本当に職住近接が難しい、さらに何か塾とお受験とか、そういうところもいろいろあって、それがいい悪いは置いておくのですけれども、要は岩手で実現できるライフスタイルって時間的にも余裕があったり、忙しいとはいえ通勤時間が短い。それで、子供さんの保育所とかも近いという意味で、何だかんだゆとりが持てたりとか、あとやっぱり家族で移住してきて郷土芸能をやっている方ですとか、登山とか、スキーとか、そういう趣味に時間もつくというワーク・ライフ・バランスとか、ライフスタイルを充実させるということは比較的東京に比べるとお金をかけずにできる地域だと私は思っています。

それとともに、やっぱり学びの場もたくさん岩手にはあると思っておりまして、実際西和賀高校の人数が増えたりですとかもしておりますし、あと社会人になってからの生涯学習とかそういう観点でも、この今のAIの時代に課題を見つけるとか、自分で考える、いわゆる自律的人材と言われるようなところというのは、大手の大きい企業の中で若いうちに自分で考えて決めるというような機会って少ないと思うのですけれども、それが地域であればできるというような、そういった機会が若いときから多く与えられるというような部分でも自律的に考えて動くという経験も積めるというような良さもあると思います。

一方で、底上げというところでは、Uターンを考えている層に対して、キャリアステージに応じて情報を届けるというようなところがちょっとまだ足りないのかなとちょっともったいなく思っております。

以上です。

○山本欣郎会長 ありがとうございました。

次は、長屋委員お願いします。

○長屋あゆみ委員 よろしく願いいたします。私はNPO法人フォルダ、総合型地域ス

スポーツクラブの理事長をしております。あとは、もう一つの職業としては幼児教育の専門家として、園の先生や保育園の先生、あと園の多様性がある子供たちの関わりだったり、あと園経営というところの専門家でもありますので、皆様からたくさん岩手の魅力も出ましたので、そこにちょっと焦点を絞って2分くらいでお話をしたいと思います。

先ほどその前に若者・女性部会の開催報告で質問したかったことが1点ありまして、地域とのつながりが乏しいという反面、過度のつながりは嫌だということがあったかと思うのです。それがどういうつながりだったら希望どおりなのかなというのがちょっと見えなかった。つながるという真逆の捉え方があったかなと思うのですね。その質問でした。

なので、私が思うにはつながる、つながらないの二択ではなく、例えばどんな距離感だったらいいのかということにもうちょっと踏み込んでみて、やれるところからやっていくというのがいいのかなということの質問でした。

そして、それに付随してですけれども、やはり生きにくさということに関して心の部分であったり、周りの人たちがどう自分に対して関わるかということ、認められるとか、失敗をも認めてくれるというのは、やっぱり教育機関の特に幼児期からやる必要があると思っています。

ですので、教育の中にそういった道徳と呼ばれる部分というのをもっと先生方が授業の中や、例えば保育だったら保育の中にワードとして入れていくと、そうか、失敗したら笑うのではなくて、こう声かけてあげるとお友達は喜ぶんだというところから、教育機関としてはもっともっと頑張ってほしいなと思っています。

私の提言としてというか、様々な観点からということで聞いていただければなと思いますが、これは私の独自の発想です。岩手留学みたいなワードで、例えばスポーツ留学ってありますよね、野球もそうです。野球で勝ちたいがためにスポーツ留学ありますね。保育も保育留学というのがありまして、この間、先ほど手塚委員からもありましたけれども、西和賀高校があるように、西和賀町は保育も、園児、生まれた家族三、四人ぐらいでするので、もう園としても成り立たないということで保育留学に踏み込むという話題を聞きました。

その1つ上の学校というところですけども、私も120名のクラブ員を持っていまして新体操をしているのですが、その親御さんの今悩みというか、メンタルケアもしています。その中で、発達障がいとかそういうことではなく、いわゆる不登校ですね、ちょっとしたいざこざがあって行けなくなったとか、集団がちょっと苦手というお子さんがいると思うのですけれども、そのためのフリースクールとかあると思うのですが、それを教育留学ということで岩手の自然を使っていったらいいのではないかと考えています。時間が30秒で、かなりかいつまんで言いますが、フリースクールの中にオルタナティブスクールというのがあるのですが、もう一つの選択肢という意味です。学校の仕組みに合わない子がそこで個性を発揮しながら、勉強というものも少しずつ取り入れてくというものですけれども、そういったものを大々的にやっている都道府県はまだないはずなので、岩手の資産を生かしたという、そこに特化して少子高齢化の特に村とか町というところにどんどん導入する仕組みをつくったらいいのではないかなと思っています。

あとは、スポーツ分野でいうと、資料の22ページにある、そこに提言しましたとおり、総合型地域スポーツクラブが医療費、介護費の抑制につながるインフラとしてのことを進

めてほしいことと、先ほどの例えば何とか留学って、スポーツでも、教育でもそうだけれども、多分民間だったり、NPOさんだったり、社団法人さんがされることになるのかなと思うのですが、その方々の安定収入が見込めなければ、そこに携わりたくて勉強している方々の資格が生かせないという人も結構います。結局それだけでは食べていけないという現状がありますので、どうぞ岩手として先頭に立って、全国のロールモデルになれたらいいかなと思います。

以上です。ありがとうございます。

○山本欣郎会長 ありがとうございます。

野田委員お願いします。

○野田大介委員 洋野町の社会福祉法人みちのく大寿会の、施設の名前は特別養護老人ホーム久慈平荘で副施設長をやっています野田大介といいます。今日はリモートで失礼します。私は、岩手県の社会福祉法人経営者協議会というところで監事をやっておりまして、その関係もありまして、今回は業界の話も含めてさせていただきたいと思います。

皆さんにタクシードライバー、タクシー運転士といえばどんなイメージをお持ちでしょうか。いわゆる年配の運転者が多くて人材、人手不足で大変な仕事だなというイメージがあると思うのですが、この前の7月5日の読売新聞に「タクシー運転手若返り、配車アプリ稼ぎやすく」という見出しの記事を見ました。内容は都市部で、いわゆる東京と大阪なのですが、若返りの兆しがあるという内容でした。具体的に言うと、大阪府で平均年齢が5歳下がった、東京都では4歳下がったという内容で、若返りに結びついた理由が3点ありました。1点目が収入のよさ、2点目がタクシーの配車アプリの普及、3点目が働きやすい環境づくりというこの3点でした。

収入のよさという点では、10年前は年収300万円ぐらいが全国平均だったそうなのですが、今は全国平均で運転手さんが450万円になっているそうです。あとは、歩合制でもありますので、稼ぎたいと思う方はもっと稼げるという業界になったそうです。

また、効率的に稼ぐためにIT、いわゆる配車アプリが有効で、経験が浅い運転者さんも配車アプリを基にしてお客さんを拾いに行くことができるということだそうです。

そして、環境づくりという点では、女性にも参入していただきたいということで、交流スペースをつくったりとか、女性専用の更衣室とかトイレをつくって、働きやすい職場をつくっているそうです。

翻って、私は介護業界ですので、私たちの業界に当てはめると、いわゆる処遇改善、ICT、介護リフトの導入、あと働きやすい職場づくりということで、国とか岩手県の方から御支援をいただいております。本当に感謝申し上げます。

しかし、人手不足というのがうちの業界は本当に顕著でございまして、さらなる支援の必要性としましては、介護用リフトの導入、あとはAI、ICTの導入への支援、そしてやはり処遇改善、こちらの方が大事なかなと思っております。

私も所属しております全国社会福祉法人経営者協議会の調査によりますと、全国全産業平均に比べて約100万円ほど介護の業界は、いわゆる待遇が低いという状況です。私たち公的介護保険制度で働いている者は価格決定権がないので、やはり国への処遇改善の働き

かけという一本道しかなく、そういう点では県独自の支援策も考えていただければと思っています。

タクシー運転手の例を出しましたが、若者は大変な仕事だけれども、給料もちょうど人並みにもらえて、働きやすい職場であれば、働く人は増えます。タクシーの運転手さんは、人を目的地にお届けするという、人の役に立てる仕事だということで参入していると新聞記事を基にすると推測できます。介護も人の役に立てる仕事ですので、そういうところに何か支援していただければ、もしかすると好転するのではないかなと思っています。

以上です。

○山本欣郎会長 ありがとうございました。

山下委員をお願いします。

○山下奉幸委員 岩手県P連の山下です。よろしくお願いいたします。これからの政策の効果を高めるためには、子供も大人も人間力、地域力を高めることが重要と考え、PTAの立場でお話いたします。

強みを更に伸ばす観点としては、岩手の教育、地域の強みは、教育振興に基づいた人のつながりと地域に根差した学びにあると思っています。これをさらに伸ばすために3点提案いたします。1つ目は、地域協働による探究型学習を強く推進をしていくということです。学校、PTA、地域、団体、企業が連携し、地域課題や地域資源を題材にした探究型学習をさらに強く推進していくことが求められていると思います。例えば防災、環境、観光、福祉など、地域固有のテーマを県で教材化してみるとか、PTAが地域講師や学びの伴走者として関わる仕組みをつくっていただければたくさん協力したいなと思います。

2つ目は、家庭教育支援のネットワーク化です。孤立者を減らしていくということで、子育て、学習支援を地域教育力として再構築していくことが必要だと思います。そのためには公民館、学校、PTAが連携した家庭教育サポート拠点を各市町村にしっかりと整備をしていく。それと、保護者の孤立防止と地域全体で子供を育てる文化の継承をしていくことが必要だと思います。

3点目としては、デジタル教育の地域展開、ICT教育の成果を地域にも還元し、PTAがデジタルリテラシー講座や親子ICT教室などを私たちが開催し、世代間の学びを推進してまいりたいと思っています。

底上げが必要な観点としても3点ほど話をしたいと思っています。先ほども申しましたが、地域間、家庭間の教育格差、学びの機会格差が顕在化しています。この底上げに向けて次の3点を強化するべきだと考えますので、提案いたします。1つ目としては、教育機会の均等化、山間部、沿岸部の教育環境を支えるオンライン教育と地域講師の制度をつくっていくということ。県やPTAが地域講師の発掘や支援を担うことで教育資源を高めていくということです。

2点目としては、子供の居場所づくりの充実。放課後、休日に安心して学び、遊べる場を地域でしっかり確保していくことをサポートしていただきたいなと思います。

3点目としては、教育行政と地域組織の協働の強化、教育委員会、PTA、地域、団体が定期的に課題を共有、政策提案を行う地域教育協議会みたいなもの、今あるかどうか分

かりませんが、今は若者・女性部会がそういうところを担っているとは思いますが、これもどんどん、どんどん、各地に拡充していくことが必要ではないのかなと思います。現場の声を計画的に反映する双方の仕組みをつくっていくと、より進んでいくのではないかなと思います。

先ほど補足ですが、分からないということがどうしても今の日本の教育はよくないというか、駄目みたいな、そういう意識を持たれてしまうところがあります。例えば授業で「この問題分かる人は手挙げて」と、手を挙げない子はやっぱり心苦しい気持ち、分からないということはちょっと恥ずかしいことなのだみたいなことをやはり子供の頃から蓄積されてしまって「分からない」を言えない大人もどんどん増えていると思います。支援が必要な人ほど「分からない」を言えないです。そういったところまで教育の現場を見直していけば、どんどん岩手の魅力が高まっていくのではないのかなと、地域愛を高めていくことができるのではないのかなと思っています。

以上です。

○山本欣郎会長 ありがとうございます。最後に、私の方から少し話をさせていただきたいと思います。

岩手大学は地方国立大学ですけれども、地域社会に根差して、地域だけでなく全国、海外へと活躍の場を広げる人材を育成する、社会に送り出す、これが使命です。大学には多様な専門性を持つ研究者も多数おりますので、地域が抱える様々な課題の解決に、研究面の方からも貢献するというのも重要な役割だと考えています。

さて、県の施策として強みをさらに伸ばすところ、これはやはり産業集積の加速だと考えております。北上川流域で半導体、自動車関連産業が発展しておりますが、これは国の成長戦略とも整合性が高いので、今後もこの流れを強化していく必要があります。

一方で、近藤委員も述べられておりましたけれども、これまで工場立地が中心でしたが、ぜひ企画あるいは研究部門のところも誘致して多角的に展開していただきたいと考えております。こうすることによって、県内大学の卒業生、大学院の修了生を企業に引きつけるということができると考えています。こうした人材の受皿が広がれば若年層の県内定着が進んで、人口減少対策にも寄与できるのではないかと考えております。

一方で、底上げが必要な施策としては、農林水産業、食品加工、六次産業などの農業関連産業の振興を考えています。岩手県は食料自給率は100%を超えていますし、一次産業の従事者の割合も高い、また食料安全保障の観点からも重要な基盤を有していると考えています。例えばAIをはじめとする新しい技術の導入、あるいは県内の関連産業の高度化を進める、農業に従事する県民の生活をより豊かにしていく、といったことを考えていくべきではないかと考えています。大学としても全面的に協力して研究開発、人材育成等を支援していきたいと考えます。

また、担い手不足の解消についても新技術の導入によって事業者の新規参入を刺激し、産業の持続性向上にも考えていく、そういう必要があるのではないかと考えます。

また、現在AIが非常に話題になっています。AIは理系の職域だけではなくて、大学としては事務系を含む文系の職域についても必須の技術となっていると考えていますので、情報あるいはAIに関する教育を文系の学生にも行う必要があると考えております。

もう一つ、人口減少問題は大学にとっても極めて大きな課題です。2040年には、岩手県の18歳人口は6割程度まで減少すると推計されています。少子化が進んだ将来を見据えて、様々な対応策を検討しておりますが、その一つとして留学生を高度の外国人人材として育成するということを構想しています。例えば留学生が大学卒業後も日本、あるいは岩手県で、大学での学びを生かしながら活躍して頂くことができれば、人口減少問題解決への一つの対策になると考えています。日本語あるいはビジネスマナーを含む基礎教育に加えて、専門的な知識、技術を備え、あるいは日本文化への理解も深い即戦力の人材を育成し、県内企業に定着させるといったことが、地域の産業あるいは岩手県を支える一つの策になるのではないかと考えています。

いずれにせよ、今後も岩手大学は岩手県の施策に協力しつつ、地域社会に資する人材育成を行っていきたいと思っております。

私の意見は以上です。

これで、一通り皆さんの意見をいただいたということになります。先ほどの長屋委員の質問に関して事務局から回答があるということなので、御発言いただければと思います。

○菊池政策企画部政策企画課特命参事兼政策課長 長屋委員から若者・女性部会で地域との距離感ということでの御質問だったかと思いますが、こちらにつきましてはこの部会におきましては、若者の意見として地域の過度な干渉、生きづらさ、そういったことが挙げられておりますが、一方でこういったことに対して地域で何か水準なり、基準なり、定量的な、そういった何か考え方を示すというのはなかなか難しいところかなと思っております。特に若者に限らず、それぞれの置かれた状況ですとか、年代によってやっぱり地域との関わり方というのは変わってくるだろうと思っておりますので、その辺は地域もこれまでの無意識の思い込みといいますか、アンコンシャスバイアスのようなものを解消しつつ、改善しつつ、柔軟な地域となっていくことが重要なのではないかなと考えてございます。

○山本欣郎会長 どうもありがとうございました。

この後も意見交換したいところですが、時間がなくなってしまいました。それでは、これで進行を事務局にお返しします。本日は、皆さん御意見いただき、本当にありがとうございました。

では、事務局の方でよろしく願いいたします。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 山本会長、議事進行ありがとうございました。

5 その他

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 それでは、次第の5のその他についてでございます。

最後に、全体を通して何かございましたら御発言をお願いいたします。

「なし」の声

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 よろしいですか。ないようですので、委員の皆様、長時間にわたる御審議大変ありがとうございました。

6 閉会

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 それでは、閉会に当たりまして、知事より御礼を申し上げます。

○達増知事 充実の意見交換、誠にありがとうございました。今まで漠然と感じていたことや、あるいは腑に落ちなかったことをそれぞれ言葉にさせていただいて、大分課題とか、あとは強みとか、分かりやすくなって取り組みやすくなってきたのではないかと思います。

岩手に関する情報の共有や発信もやはりきちんと言葉にしていくことが大事だなと思いますし、総合計画アクションプラン、言葉を使ってつくっていくものでありますので、今後やはり岩手の未来をきちんと言葉にしていければと思います。これは、若者・女性部会の内容についてもそのとおりでありました。

あとは、物価高騰問題が今農業、医療、介護など、現場でかなり厳しい状況を引き起しているということもありましたので、これはもう今すぐにでも県の方で物価高騰対策それぞれの分野で講じていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

○佐藤政策企画部副部長兼首席調査監 それでは、本日の審議会はこれを持ちまして閉会といたします。長時間にわたりまして、ありがとうございました。